

感染症一覧

令和8年度 キッズファースト保育園

◇医師が記入した「登園許可書」が必要な感染症

病名	感染しやすい期間	潜伏期間	感染経路	出席停止後の登園の目安
麻疹(はしか)	発熱1日前から発しん出現後の4日後まで	8～12日	飛沫・接触・空気感染	解熱後3日を経過していること
インフルエンザ	発症24時間前から発症後3日程度まで最も感染力が強い	1～4日	飛沫・接触感染	発症した後、5日を経過し、かつ、解熱した後、3日を経過するまで
風しん	発しん出現、前後7日間くらい	16～18日	飛沫・接触感染	発しんが消失していること
水痘(水ぼうそう)	発疹出現1～2日前から、かさぶた形成まで	14～16日	空気・飛沫感染	すべての発疹かさぶた化していること
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発症3日前から腫脹出現後4日	16～18日	飛沫・接触感染	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になっていること
咽頭結膜熱(プール熱)(アデノウイルス感染症)	発熱、充血等症状が出現した数日間	2～14日	飛沫感染	主な症状(発熱、咽頭発赤、眼の充血)が消失してから2日を経過していること
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	2～14日	飛沫・接触感染	結膜炎の症状が消失していること
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間をけいにするまで	7～10日	飛沫・接触感染	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療を終了していること
腸管出血性大腸菌感染症(O-157、O-26、O-112等)	便中に菌が排泄されている間	10時間～6日	経口・接触感染	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎		1～3日	飛沫・接触感染	医師により、感染の恐れがないと認められていること
新型コロナウイルス感染症	特に発症後5日間 ウィルスの排出期間は発症2日前から発症後7～10日間(個人差がある)	約5日間 最長14日間	エアロゾル感染 飛沫・接触感染	発症翌日から5日間経過し、かつ、症状軽快後1日を経過するまで

◇下記の症状が治まってから、医師の許可のもと登園が可能な感染症

病名	感染しやすい期間	潜伏期間	主な感染経路	登園の目安
髄膜炎 菌性髄膜炎		4日以内	飛沫・接触感染	医師により、感染の恐れがないと認められていること
溶連菌感染症	抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	2～5日	飛沫・接触・経口感染	抗菌薬内服後、24～48時間経過し、全体状態が良いこと
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と、開始後数日間	2～3週間	飛沫感染	発熱や、激しい咳が治まっていること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	4～6日	飛沫・接触感染	重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
感染性胃腸炎(ノロウイルス)	症状のある期間と、症状消滅後1週間(便中に数週間ウイルスは排泄されているので注意が必要)	12～48時間	経口・飛沫・接触・空気感染	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	症状のある期間と、症状消滅後2週間(便中に数週間ウイルスは排泄されているので注意が必要)	1～3日	経口・飛沫・接触感染	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(りんご病)	発しん出現前の1週間	4～14日	飛沫感染	全身状態がよいこと
手足口病	手足や口腔内に水疱、潰瘍が発症した数日間	3～6日	飛沫・経口・接触感染	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性膿痂疹(とびひ)	効果的治療開始後24時間まで	2～10日 (長期の場合もある)	接触感染	皮疹が乾燥しているか、ジクジクしている所をガーゼ等で覆える程度であること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	3～6日	飛沫・経口・接触感染	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
アタマジラミ	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間(7～14日間)と成虫になるまでの期間(14日間)	10～30日	接触感染	駆除を開始していること

※上記以外でも、集団感染が予測される症状が発現した場合は、お休みやお迎えをお願いすることがあります。いつもより機嫌が悪い、風邪症状がある等の場合は、無理をせず自宅で様子を見てください。